1998年度

フランス語学科シラバス

獨協大学

目次の見方

① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用と、1993年度以前入学者用とに分かれています。
② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。

科目名の表記について

入学年度によって、科目名の異なる科目があります。

該当する入学年度は、科目名末尾のカッコ内に表示されています。表示がない場合は、入学年度による科目名の区別はありません。

正しい科目名で履修するよう、注意してください。自分の入学年度を対象としていない科目名での履修はできません。

人数制限についての注意

フランス語学科専門科目のフランス語部門——講読、作文、会話、時事フランス語、商業フランス語——については、科目の性質上、余り多人数の授業はできません。したがって、教室の収容人員を越えた履修者がいる場合、あらかじめ担当教員の承諾が必要です。承諾が無いまま履修登録をしても単位は認定されませんので、必ず第一週の授業に出席し、人数制限の有無を確かめ、制限のある場合は承諾を得てから登録するようにして下さい。

目　次

1994年度以降入学者対象

学科共通科目

「フランス語」部門

総合フランス語		各担当教員	1
フランス語文章表現法	1	H. Derieppe	2
〃	2	S. Giunta	3
〃	3	M. 水林	4
〃	4	Ph. M. R. Vanney	5
和文仏訳	1	朝倉　剛	6
〃	2	（前期）若森榮樹 （後期）一戸とおる	8
フランス語会話	1	H. Derieppe	10
〃	2	R. Floirac	11
〃	3	L. Fontaine	12
〃	4	S. Giunta	13
〃	5	L. Lattanzio	14
〃	6	B. Leurs	15
〃	7	Ch. Pelissero	16
〃	8	D. P. Roger（最初の授業で説明）	
時事フランス語	1	伊藤幸次	17
〃	2	井上たか子	18
商業フランス語	1	浅野信二郎	19
〃	2	D. P. Roger	21

「第二外国語」部門

英語Ⅲ		福田有美	23
英会話Ⅰ—1		P. Apps	25
〃	2	A. R. Falvo	27
〃	3	F. Fearn	29
〃	4，5	T. J. Fotos	31
〃	6	L. Villeneuve	33

学科専門科目

「フランス語学・文学」部門

フランス語学概論 ---------- 古川直世 -------- 35
フランス文学概論 ---------- 鈴木道彦 -------- 37
フランス語史 ---------- 山田秀男 -------- 39
フランス文学史 ---------- 保苅瑞穂 -------- 41
フランス語学各論 ---------- 小石　悟 -------- 42
フランス文学各論 ---------- 山内宏之 -------- 43
フランス語学講読 1 ---------- 青木一郎 -------- 45
〃 2 ---------- 山田秀男 -------- 46
フランス文学講読 1 ---------- 井村順一 -------- 48
〃 2 ---------- 鈴木道彦 -------- 49
〃 3 ---------- 筒井伸保 -------- 50
〃 4 ---------- 根本祐徳 -------- 51
〃 5 ---------- 保苅瑞穂 -------- 52
〃 6 ---------- M. 水林 -------- 53

「フランス文化・社会」部門

フランス文化・社会概論 ---------- 横地卓哉 -------- 54
フランス事情 ----------(前期) 伊藤幸次 -------- 56
(後期) 井村順一
フランスの地誌 ---------- 鈴木　隆 -------- 58
フランスの歴史 ---------- 藤田朋久 -------- 59
フランスの思想 ---------- 若森栄樹 -------- 60
フランスの美術 ---------- 前川久美子 -------- 62
フランスの音楽 ---------- 松橋麻利 -------- 63
フランスの演劇 ---------- 江花輝昭 -------- 65
フランスの政治 ---------- 井上スズ -------- 67
フランスの経済 ---------- 千代浦昌道 -------- 69
フランス文化・社会各論 ---------- 筒井伸保 -------- 71
フランス文化・社会講読 1 ---------- 一戸とおる -------- 72
〃 2 ---------- 江花輝昭 -------- 73
〃 3 ---------- 小石　悟 -------- 75
〃 4 ---------- 佐藤正之 -------- 76
〃 5 ---------- 鈴木　隆 -------- 77
〃 6 ---------- 横地卓哉 -------- 78
〃 7 ---------- Ph. M. R. Vanney -------- 79

目　　次

1993年度以前入学者対象

「フランス語」部門

フランス語講読		青木一郎	45
〃		一戸とおる	72
〃		井村順一	48
〃		江花輝昭	73
〃		小石　悟	75
〃		佐藤正之	76
〃		鈴木　隆	77
〃		鈴木道彦	49
〃		筒井伸保	50
〃		根本祐徳	51
〃		保苅瑞穂	52
〃		山田秀男	46
〃		横地卓哉	78
〃		M. 水林	53
〃		Ph. M. R. Vanney	79
フランス語作文		朝倉　剛	6
〃	（前期）	若森榮樹	8
	（後期）	一戸とおる	
〃		H. Derieppe	2
〃		S. Giunta	3
〃		M. 水林	4
〃		Ph. M. R. Vanney	5
フランス語会話		H. Derieppe	10
〃		R. Floirac	11
〃		L. Fontaine	12
〃		S. Giunta	13
〃		L. Lattanzio	14
〃		B. Leurs	15
〃		Ch. Pelissero	16
〃		D. P. Roger	（最初の授業で説明）
時事フランス語		伊藤幸次	17
		井上たか子	18
商業フランス語		浅野信二郎	19
〃		D. P. Roger	21

「フランス語学」部門

フランス語学概論 …… 青木一郎 （最初の授業で説明）
〃 …… 佐藤正之 （ 〃 ）
〃 …… 星野 徹 （ 〃 ）
〃 …… 山田秀男 （ 〃 ）
〃 …… 小石 悟 （ 〃 ）
フランス語史 …… 山田秀男 …… 46
フランス語学特殊講義 …… 小石 悟 …… 42

「フランス文学」部門

フランス文学概論 …… 鈴木道彦 …… 37
フランス文学各論 …… 山内宏之 …… 43

「フランス文化」部門

フランスの地誌 …… 鈴木 隆 …… 58
フランスの歴史 …… 藤田朋久 …… 59
フランスの哲学 …… 若森栄樹 …… 60
フランスの美術 …… 前川久美子 …… 62
フランスの音楽 …… 松橋麻利 …… 63
フランスの演劇 …… 江花輝昭 …… 65
フランス事情 …… （前）伊藤幸次 …… 56
（後）井村順一
フランスの政治 …… 井上スズ …… 67
フランスの経済 …… 千代浦昌道 …… 69
フランス文化特殊講義 …… 筒井伸保 …… 71

「第二外国語」部門

英語Ⅲ ---------- 福田有美 -------- 23
英会話Ⅰ ---------- P. Apps -------- 25
〃 ---------- A. R. Falvo -------- 27
〃 ---------- F. Fearn -------- 29
〃 ---------- T. J. Fotos -------- 31
〃 ---------- L. Villeneuve -------- 33

科目名	総合フランス語（94年度以降）	担当者名	各担当教員

講義の目標	Approfondir la a connaissance de la langue française, aussi bien sur le plan grammatical que lexical.	
講義概要	Les groupes 1, 2 et 3 travailleront sur *Le Nouveau sans frontières* 2, les groupes 4 et 5 sur Panorama 2. Comme ce cours n'est assuré qu'une fois par semaine par un enseignant francophone, les étudiants doivent travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Ils disposeront des cassettes des leçons. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.	
使用教材	テキスト	*Le nouveau sans frontières 2 / Panorama 2*
	参考文献	
評価方法	La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	
受講者に対する要望など	Faites bien attention au numéro de votre groupe! Il est peut-être différent de celui de l'année dernière.	

科目名	フランス語文章表現法１（94年度以降） フランス語作文（93年度以前）	担当者名	H. Derieppe

講義の目標		L'objectif de mon cours sera de permettre aux étudiants de s'exprimer par écrit dans des situations diverses.
講義概要		Le cours se déroulera à partir de photocopies tirées de la méthode Espace 1 et 2, en fonction du niveau des élèves.
使用教材	テキスト	Espace 1, Espace 2
	参考文献	
評価方法		La notation se fera sur contrôle ou dossier à rendre, point à décider avec les étudiants en début d'année scolaire.
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語文章表現法２（94年度以降） フランス語作文（93年度以前）	担当者名	S. Giunta

講義の目標	フランスを語るうえで欠かせないワインはフランスの誇るべき文化遺産でもあります。ワインを理解しながら、より一層の作文力を身につけることを目的とします。	
講義概要	この授業はワインに関する10のテーマから、その歴史とワインに関する歴史上の人物のエピソードなども取りまぜ、文章力を高めます。ＬＬ教室でのトレーニングは理解力の向上に役立つでしょう。補助教材としてのポール・ボーキュスのビデオはワインとフランス料理の関係を興味深く学べます。	
使用教材	テキスト	伊藤幸次ほか著「ワインの話」駿河台出版社
	参考文献	
評価方法	リポート	
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語文章表現法３（94年度以降） フランス語作文（93年度以前）	担当者名	M. 水　林

講義の目標		Avoir le courage d'écrire directement en francais différentes sortes de textes sans passer par la traduction.
講義概要		Ce cours s'adresse aux étudiants qui désirent améliorer leur capacité de français à l'écrit. Dans un premier temps, on fera des révisions grammaticales en vue de fixer les structures de base pour passer dans un deuxième temps à la rédaction de petits textes variés—lettres, résumés, comptes-rendus—en relation avec notre vie quotidienne.
使用教材	テキスト	Photocopies.
	参考文献	Un dictionnaire français. Par exemple, le Dictionnaire du francais langue ètrangére niveau Ⅱ, ou bien le Dictionnaire du français contemporain. Ces deux dictionnaires, publiés chez Larousse, sont diffusés au Japon en format de poche aux éditions Surugadai-shuppansha. *Le Micro Robert* de poche est conseillé.
評価方法		1. Contrôle continu, ce qui signifie que les étudiants doivent participer au cours chaque semaine. 2. Test lors du dernier cours du ler et du 2e semestres.
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語文章表現法４（94年度以降） フランス語作文（93年度以前）	担当者名	Ph. M. R. Vanney

講義の目標		Savoir écrire en français avec logique et clarté.
講義概要		-Exercices variés en classe pour prendre conscience de l'ordre des mots dans une phrase, de la ponctuation, de l'ordre des phrases et des paragraphes dans un texte. Travail sur la structure des paragraphes, les articulations et le plan. -Une fois par semestre, chaque étudiant rédige une composition dont le sujet est libre. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.
使用教材	テキスト	Photocopies: les sujets concernent plutôt la société française.
	参考文献	-*Comment dire? Raisonner à la française*, Clé International. -R. Besson, *Guide pratique de la communication écrite*, Édit. Casteilla. -JP. Colignon, *Un point, c'est tout*, Éditions du CFPJ.
評価方法		Le grand devoir semestriel est noté.
受講者に対する要望など		Ce n'est pas un cours de traduction.

科目名	和文仏訳1（94年度以降） フランス語作文（93年度以前）	担当者名	朝倉　剛

講義の目標		2年間の学習によって、フランス語への習熟度は或る程度のレベルに達しているという前提にたち、日常的、実用的な、あるいは文学的な仏作文の手引きとその実習を目標とする。仏作文学習の積極面は、およそ次の2点に集約されるであろう。 (1) フランス語の原典の「読み」もいっそう深めるこができる。つまり「解読作業」と「作成作業」とをつなごうという意識がもてる。 (2) 将来、作文能力を活かし、日仏文化の接触と交流とを促進することに貢献できる。
講義概要		(1) テキストを用い、日常的・実用的作文を実習し、フランス語の慣用的熟語表現の習得に重点を置く。それと平行して、初歩の課程では学ばない「文法の難所」(difficultés grammaticales) に目を向けさせる。 (2) 後半の7回ぐらいは、日本文学の仏語訳を読み、2つの言語の発想、表現の違いを検討し、さらに文学作品、エッセー、天声人語のようなコラム類を選んで、仏訳を試みるつもりである。
使用教材	テキスト	・大賀正喜著　『現代フランス語作文』(*Le français tel qu'on l'écrit*)　第三書房 ・プリント配布
	参考文献	・大賀正喜著　『現代仏作文のテクニック』　大修館 ・同上　『現代フランス語名詞活用辞典』　大修館 ・大賀・メランベルジェ共著　『和文仏訳のサスペンス』　白水社 ・田島宏編　『コレクション　フランス語(7)——書く』　白水社 ・大橋保夫ほか著　『フランス語とはどういう言語か』　駿河台出版社
評価方法		評価は前後期各1回の試験と授業参加への熱意によって決定する。 ときどき各自の「試作」を提出してもらう。これも評価の基準のひとつとする。
受講者に対する要望など		授業に積極的に参加し、自分自身でかならず書いてみること。あたりまえのことだが、これ以外に上達の道はない。

年間授業計画	1. 作文の授業は深く学習者に関わって、実習・添削を重んじる。従って、受講者の平均的なレベルをつかみ、とくに人数が定まらないと、具体的に年間計画をたてることは困難である。 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.

科目名	和文仏訳２（94年度以降） フランス語作文（93年度以前）	担当者名	（前期）若森　榮樹 （後期）一戸とおる

前　期

講義の目標	できるだけ自然なフランス語である程度の長さをもつ文章を書けるようにすることが、本講座の目的です。そのためには、授業以外の場でも、使える単語をふやし、多様な言い方ができるようになるよういつも心掛けていただきたいと思います。	
講義概要	前半には単文中心の作文の練習をし、後半では各文の繋がり方や論理的な関連付けに注意を払っていきたい。	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	授業の際に指示する。
評価方法	試験の結果によって評価する。	
受講者に対する要望など	普段からなるべく多くの単語と言い回しをマスターするよう努力して下さい。	

年間授業計画

1. 基礎作文（文法事項に添って）　(1)
2. 〃　(2)
3. 〃　(3)
4. 〃　(4)
5. 〃　(5)
6. 〃　(6)
7. 文章の論理的な関係付け　(1)
8. 〃　(2)
9. 〃　(3)
10. 〃　(4)
11. 〃　(5)
12. 〃　(6)

後　期

講義の目標	同一内容を扱った日本語と仏語の新聞記事を比較対照しながら、日本語の記事を仏訳する。仏語の記事を熟読することによって、仏語表現をパターン化・モデル化し、日本語のなかに、この表現パターン・モデルを見いだす練習をする。これによって、仏語の表現能力を養う。	
講義概要	仏語新聞の記事のなかから、日本語の記事を仏訳する際に使えそうな語彙・表現を探す作業をはじめに行う。これらを参考に、日本語の記事を仏訳する。これを、担当した学生に板書してもらい、訂正・修正する。以上の流れに沿って、一つの記事を１・２週で仏訳していく。	
使用教材	テキスト	適宜コピー
	参考文献	・大賀正喜「現代フランス作文のテクニック」大修館書店　・石井洋二郎「時事フランス語の入門」白水社　・小林茂「新聞のフランス語」白水社
評価方法	授業への参加態度の積極性の有無、３回程度実施する予定の小テスト、定期試験を総合して評価する。	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	1. 事故関連記事（飛行機事故、船舶沈没、ガス爆発、洪水、etc.）の仏訳 2. 同上 3. スポーツ関連記事（テニス、陸上、自転車、サッカー、F１, etc）の仏訳 4. 同上 5. 政治関連記事（選挙、首脳会議、スキャンダル、etc.）の仏訳 6. 同上 7. 賞関連記事（ノーベル賞、カンヌ映画際、音楽コンクール、etc.） 8. 同上 9. 死亡記事（文学者、政治家、学者、デザイナー、etc.） 10. 同上 11. ３面記事（殺人、強盗、麻薬、etc.） 12. 同上	

科目名	フランス語会話1	担当者名	H. Derieppe

講義の目標		L'objectif de mon cours sera de permettre aux étudiants de s'exprimer sans crainte dans des situations de communication diverses.
講義概要		Le cours se déroulera à partir de photocopies tirées de la méthode Espace 1 et 2, ou d'autres manuels, en fonction du niveau des élèves et donnera matière à réfléchir et à s'exprimer. Jeux de rôles, écriture de petits sketches ne seront pas rares.
使用教材	テキスト	Espace 1, Espace 2
	参考文献	
評価方法		La notation se fera sur contrôle ou dossier à rendre, point à décider avec les étudiants en début d'année scolaire.
受講者に対する要望など		

科　目　名	フランス語会話 2	担当者名	R. Floirac

講義の目標		Le francais tel qu'on le parle. Vous avez l'intention de visiter ou de sejourner en France ou dans un pays francophone? Cette classe presentera 10 themes de la vie de chaque jour (transports, banque, etc) et qui serviront de base a des conversations. Un etudiant prepare en vaut deux : il pourra faire un voyage utile et agreable. Ce cours debutera par l'ecoute d'une cassette.
講義概要		
使用教材	テキスト	H. Kurata. S. Giunta. SANS ESCALE. Ed. SOBI.
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		Une participation active aux cours sera necessaire a l'obtention le l'unite de valeur.

科目名	フランス語会話 3	担当者名	L. Fontaine

講義の目標		*Le but :* L'expression de soi en francais.
講義概要		*Description du cours* Ce cours sera surtout destine aux etudiants qui viennent de finir leur deuxieme annee. Il ne s'appuiera sur aucun manuel, mais des documents simples qui toucheront differents themes et susciteront la communication orale seront fournis aux etudiants au fur et a mesure.
使用教材	テキスト	*Le manuel* : Pas de manuel mais des photocopies d'origines diverses.
	参考文献	
評価方法		*La methode d'evaluation* : Il n'y aura pas d'examen final ; l'evaluation sera continue et dependra de la participation active des etudiants aux activites proposees. Etre present aux cours sera aussi un facteur important de reussite.
受講者に対する要望など		*Message aux etudiants* : Ce cours se veut une prolongation des etudes faites en deuxieme annee ; n'hesitez pas a venir

科　目　名	フランス語会話 4	担当者名	S. Giunta

講義の目標		日常生活に必要な会話力の向上と、フランスをより理解することを目的とします。
講義概要		フランスにおいて私たちが直面するテーマごとに、会話の理解力と返答の方法を学びます。よりナチュラルな会話力により日常生活が有意義で実りのあるものになるよう授業を進めます。ＬＬ教室でのトレーニングは適切な返答の習慣を身につけ、又、補助教材としてのビデオはフランスを理解するのに役立つでしょう。
使用教材	テキスト	倉方秀憲ほか著「オブジェクティフ」早美出版社
	参考文献	
評価方法		リポート
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 5	担当者名	L. Lattanzio

講義の目標		Ce cours a pour objectif de perfectionner la compréhension et l'expression orales en français.
講義概要		Discussion libre autour de thèmes proposés par les étudiants ou le professeur. Documents écrits (textes tirés de la presse ou de l'internet) ou audiovisuels (films, documentaires, etc.) serviront en général de point de départ à la discussion.
使用教材	テキスト	コピー
	参考文献	
評価方法		出席を重視し、授業中の参加状況によって評価します。
受講者に対する要望など		受け身の態度ではなく、積極的に授業に参加することを希望します。第一回目の授業時に全体的な説明をしますので、必ず出席して下さい。

科　目　名	フランス語会話 6	担当者名	B. Leurs

講義の目標		この講義は語彙を増やしたい学生を対象としています。フランス語で自由に表現するためには、語彙を増やすことが必要です。フランスの日常生活や社会・文化に関するルポルタージュ、広告、映画の場面、シャンソンなどを使って語彙を学んでいきます。
講義概要		主なテーマとして： —フランスの多彩な顔（季節、人々、地域） —食文化（ワインの話） —７月14日（パリ祭）　権利と自由200年の歴史 —休暇の過ごし方
使用教材	テキスト	“DIALOGUES”（第三書房）
	参考文献	
評価方法		授業への参加態度の積極性の有無、前期・後期の定期試験を総合して評価します。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話７	担当者名	Ch. Pelissero

講義の目標		CE COURS VISERA A VOUS DONNER LA PAROLE AU TRAVERS DE THEMES DETERMINES A L'AVANCE. NOUS PROCEDERONS PAR PERIODE POUR ACCOMPLIR CETTE ETUDE.
講義概要		NOUS ETUDIERONS QUELQUES ASPECTS 1. DE LA SOCIETE FRANCAISE. 2. DE LA LITTERATURE ET DE SES IDEES. 3. DU CINEMA. 4. DE LA MUSIQUE. 5. DE L'ART.
使用教材	テキスト	LES MATERIAUX : PHOTOCOPIES, CASSETTES (A／V).
	参考文献	
評価方法		L'EVALUATION SE FERA A LA MESURE DE VOTRE PARTICIPATION.
受講者に対する要望など		

科目名	時事フランス語　1	担当者名	伊藤幸次

講義の目標	外国語を習得する時、普通日本人の場合、その能力は読>聞>書>話の順になります。母国語の場合、聞→話→読→書の順になるのですが、とりわけヨーロッパ語については、語順や文法構造の違いが障害になります。時事においても、幼児が言葉を覚える時のように聞くことから始めましょう。聞けないものを話すことはできません。特に聴覚は23才頃から急速に老化しますが、発音のための筋肉はいつでもトレーニング可能なのです。更に映像を利用して理解を深めましょう。まさに百聞は一見に如かずですから。	
講義概要	原則として講義当日の朝の *France 2* のニュースを視聴します。これは前日の夜現地時間の７時からフランスで放映されたものです。全部は聞きとれなくとも、キー・ワードを手がかりに、映像の助けを借りて内容をつかむよう努力します。聞きとれたものは繰り返して発音します。穴埋め問題のような文法的作業はできるだけしません。他にフランスの中高生向け時事問題解説紙から始めて、一般向け日刊・週刊紙誌の購読もします。	
使用教材	テキスト	*France 2*（教室で放映）
	参考文献	*Cles de l'Actualite.* *L'Evenement du Jeudi.* *Le Monde.*
評価方法	平常点。教室での対応と提出物による。	
受講者に対する要望など	28名限定。３年生優先	

科　目　名	時事フランス語２	担当者名	井　上　たか子

講義の目標	★フランス語によるニュースを通して、現在の社会の出来事に関心をもつ。 ★日本のニュースとの違いにも気付いてほしい。	
講義概要	★フランスのテレビやラジオのニュースを聞き、内容を理解する練習。 ★そこで使われている時事用語や、関連する基本的な事項について学ぶ。 ★最後に transcription を読み、理解を確認する。	
使用教材	テキスト	適宜コピーを配布する。
	参考文献	その都度、指示する。
評価方法	毎月一回行なう時事問題に関する小テストと定期試験を総合して評価する。	
受講者に対する要望など	新聞、雑誌、テレビ、ラジオなど、何らかの方法でニュースに関心をもつこと、	

年間授業計画	1. テーマが偏らないよう配慮しながら、さまざまな分野のニュースを順次とりあげていきます。 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.

科　目　名	商業フランス語１	担当者名	浅　野　信二郎

講義の目標		経済関係の記事や商業文を理解し、口頭での実務的連絡も出来るように、講師の実務経験に基づいてのフランスでの生活、日本での実務上の注意事項を説明し、毎時間の練習によって、引き合い、ホテルの予約申し込み程度の簡単な商業文を書けるようにするのを目的とする。
講義概要		下記の教科書と共に遠くのプリント類を配布し、商業・経済関係の用語や商業文の構成要素を説明し、練習の繰り返しによって、簡単な商業文を書けるようにする。
使用教材	テキスト	・ビジネスフランス語　［大阪日仏文化センター編　―　天羽均、オリヴイエ・ジャメ、野嶋篤、横山理　著、白水社］
	参考文献	
評価方法		授業への出席率、毎授業中の小練習の評価、宿題の提出期限の遵守度と成績の累積評価（50%）と試験の結果（50%）
受講者に対する要望など		受講者は十分に予習、復習する意欲を持ち、毎時間の講義には和仏及び仏和辞書を持参すること（授業中の小練習のため）

年間授業計画

1. 授業の進め方について説明し、受講者の受講目的を調べ、学力レベルをチェックする。
2. Chapitre ＩＩＩ,Unite 1−5。求人広告を読む。
   履歴書（curriclum vitae）を書く練習。
3. Chapitre V,Unité 6 & 7−La Presentation de la lettre（手紙規格文による）NF　Z　11.011 の説明。
4. ホテル、料理、ワイン
   ホテルへの予約申し込みの手紙の練習
5. Chapitre I,Unité 13 & 14 フランスでの会社の形態。
6. Chapitre ＩＶ,Unité 4 & 5フランスの電話事情。電話での交信の確認の téléx 及び手紙。(Chapitre V, Unité 22 & 15)
7. Chapitre Ｉ,Unité 11−13 経理会計、貸借対照表。手形（P.148)
8. Chapitre ＩＶ,Unité 8 & 9
   建値の種類　FAB,C&F,CAF
9. Chapitre V,Unité 8 & 9 書式各部についての復習
   本文の構成、要旨のとらえ方
10. Chapitre V,Unité 10−12 Prise de contact
11. Chapitre V,Unité 13 Lettre circulaire
12. 前期試験
    夏期休暇中の宿題を与える。
13. 宿題の講評及び経済雑誌を読む練習。
14. Chapitre V,Unité 17　情報照会状
    情報の入手方法
15. Chapitre V,Unité 18　延べ払い（règlement à termeについて
16. Chapitre V,Unité 22　確認の手紙
17. Chapitre V,Unité 23　クレームの手紙
18. フランス内の旅行手段
19. 新聞の経済記事
20. Chapitre ＩＶ,Unité 1−3　企業とコミュニケーション(1)　(2)
21. パリ商工会議所（ＣＣＩＰ）による商業フランス語の能力認定について
22. 経済雑誌の記事
23. 年間授業の総括
24. 後期試験

科　目　名	商業フランス語２	担当者名	D. P. Roger

講義の目標		Ce cours est destiné à familiariser les étudiants avec le monde de l'entreprise en France et sa culture. L'étude de textes et documents permettra d'introduire le vocabulaire et de maîtriser son utilisation, dans les domaines écrit et oral.
講義概要		La présentation de la culture française d'entreprise et du français commercial se fera par l'étude d'un manuel. Des travaux dirigés tels que la rédaction d'un document ou la mise en scène d'un échange de conversation aidera les étudiants à mettre en application les données assimilées.
使用教材	テキスト	LE FRANÇAIS DE L'ENTREPRISE (Clé International)
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		商業フランス語２と商業フランス語３を重複して履修することは出来ません。

年間授業計画	1. LES DIFFÉRENTS TYPES D'ENTREPRISE EN FRANCE L'ORGANIGRAMME DE L'ENTREPRISE 2. L'OFFRE ET LA DEMANDE D'EMPLOI 3. CHERCHER UN EMPLOI (1) LE CURRICULUM VITAE 4. (2) CAS PRATIQUE: L'ENTRETIEN 5. LA CORRESPONDANCE COMMERCIALE (1) RÉDACTION D'UNE LETTRE COMMERCIALE 6. (2) RÉDACTION D'UNE LETTRE COMMERCIALE 7. (3) CAS PRATIQUE: LE TÉLÉPHONE, LE FAX 8. PRÉPARATION D'UN VOYAGE À L'ÉTRANGER (1) LES CONTACTS UTILES 9. (2) ORGANISATION DU VOYAGE 10. (3) CAS PRATIQUE: LA NÉGOCIATION 11. LA PUBLICITÉ (1) SON IMPACT 12. (2) CAS PRATIQUE: L'IMPORTATION ET L'EXPORTATION 13. CONNAÎTRE ET DÉFENDRE SES DROITS (1) LES DROITS DES SALARIÉS 14. (2) LE CONTRAT DE TRAVAIL 15. CAS PRATIQUE: LE BULLETIN DE SALAIRE 16. LA FINANCE ET LES COMPTES (1) SE PROCURER DES CAPITAUX 17. (2) LES MARCHÉS FINANCIERS 18. (3) CAS PRATIQUE: L'ANALYSE DE BILAN 19. ENTREPRENDRE (1) SE METTRE À SON COMPTE 20. (2) IMPLANTER UNE ENTREPRISE 21. (3) CAS PRATIQUE: LA STRUCTURATION DE LA COMMUNICATION DANS L'ENTREPRISE 22. (1) DÉCRIRE UN PROCESSUS DE PRODUCTION 23. (2) L'ESPIONNAGE ET LA CONTREFAÇON 24. (3) CAS PRATIQUE: LA CONTREFAÇON

科目名	英語Ⅲ	担当者名	福田有美

講義の目標		新聞、雑誌、広告、ビジネス文書など様々な文体の英文を速読する。語彙の習得、トピックの把握など初歩的速読技術から、段階的にパラグラフの展開や構成を意識して文章を読む力を身に付ける演習を目的とする。
講義概要		1　速読に必要な技術の習得を目的としたタスク 2　テキストを読む（タイム計測） 3　テキスト内容理解の確認 4　テキストに関するディスカッションにより自分の意見を深め、最後に自分の意見を短い英文で表現する。
使用教材	テキスト	"Think In English" by Nancy Stanley et. al. Macmillan Languagehouse 1998
	参考文献	適宜紹介する。
評価方法		定期試験のほか、宿題、小テスト等を随時課し、通常の授業活動全般に加えて総合的に評価する。
受講者に対する要望など		秒まで計れる時計を持参すること。 積極的に授業で発言できる態度を望む。

年間授業計画	1. 講義概要の説明 自己評価のためのテスト 2. Identifying the General Topic/Text : Natural Wonders 3. Identifying the Topic Sentence (1)/Text : Dinosaurs 4. Identifying the Topic Sentence (2)/Text : America's Melting Pot 5. Identifying Supporting Details/Text : The Wild West 6. Identifying the Main Idea (1)／Text : Immigration 7. Identifying the Main Idea (2)／Text : Psychology of Colors 8. Identifying the Main Idea (3)／Text : Communication 9. Understanding Transition Signals/Text : Advertisement 10. Recognizing Exemplification/Text : Vacations 11. Identifying Definitions/Text : Computers 12. Identifying Similarities and Differences/Text : Transportation 13. Scanning (1)/Text : Skin 14. Scanning (2)/Text : Tattooing 15. Scanning (3)/Text : Weather Report 16. Understanding Reference (1)/Text : Professions 17. Understanding Reference (2)/Text : Acupuncture 18. Identifying Author's Purpose/Text : Computers and the Future 19. Making Predictions (1)/Text : Cholesterol 20. Making Predictions (2)/Text : Healthy Diets 21. Making Inferences/Text : Eating Out 22. 応用プリント 23. 応用プリント 24. 自己評価のためのテスト

科　目　名	英会話Ⅰ－1	担当者名	P. Apps

講義の目標		1) To develop effective and confident communication in English. 2) To reinforce grammar and vocabulary previously learned.
講義概要		The course will present an oppotunity for students to communicate with each other and the teacher in English.
使用教材	テキスト	In the course we will be using "Changing Times" by Dale Fuller. Published by MacMillan Press.
	参考文献	
評価方法		1) An interview at the end of the year. In this interview the students will be required to show basic speaking and listening ability. 2) Class performance 3) Class attendance
受講者に対する要望など		My hope is for all students to try to communicate in English.

年間授業計画	1. Introduction／Level Test 2. Information-giving and receiving 3. Descriptions 4. Levels of Formality 5. Directions 6. Personal Data 7. Class Assignment-Presentation 8. 〃 〃 〃 9. 〃 〃 〃 10. Comparisons 11. Maying Arrangements 12. Offers and Requests 13. Agreement and Disagreement 14. Invitations and Replies 15. Narration 16. Story Telling 17. Class Assignment-Commercial 18. Class Assignment-Commercial 19. Class Assignment-Commercial 20. Story Telling 21. Learning English by yourself 22. Testing 23. Testing 24. Final Class

科目名	英会話Ⅰ－2	担当者名	A. R. Falvo

講義の目標		To give students the ability to develop communicative skills as well as develop listening skills and cultural understanding.
講義概要		Using a textbook called success TV magazine we will watch a short 3 minute video and use the text for conversation practice.
使用教材	テキスト	SUCCESS 2 & 3
	参考文献	
評価方法		Grades determined by attendance weekly presentations, term exam and participation.
受講者に対する要望など		

年間授業計画	1. Introduction to course presentation of class operation. 2. Topic One & Discussion 3. Topic One-Review & Presentation 4. Topic Two & Discussion 5. Topic Two-Review & Presentation 6. Topic Three & Discussion 7. Topic Three-Review & Presentation 8. Topic Four & Discussion 9. Topic Four-Review & Presentation 10. Topic Five & Discussion 11. Topic Five-Review & Presentation 12. Term Exam 13. Second Term Introduction 14. Topic One & Discusssion 15. Topic One-Review & Presentation 16. Topic Two & Discussion 17. Topic Two-Review & Presentation 18. Topic Three & Discussion 19. Topic Three-Review & Presentation 20. Topic Four & Discussion 21. Topic Four-Review Presentation 22. Topic Five & Discussion 23. Topic Five-Review & Presentation 24. Term Exam

科　目　名	英会話Ⅰ－3	担当者名	F. Fearn

講義の目標		This is an mid-intermediate level course for students seriously wishing to improve their level of English. The course will focus upon the development of listening, speaking and reading skills. In addition to providing plenty of opportunities for course participants to raise their level of fluency attention will also be given to grammar and vocabulary, to the devlopment of both fluency and accuracy.
講義概要		The course will be student centred with an emphasis on active participation. Students will take part in pair, group and whole class activities, role plays, discussions and presentations.
使用教材	テキスト	Language in Use (Intermediate)　A. Doff & C. Jones Cambridge U. P.
	参考文献	
評価方法		Grades will be determined by attendance, participation, quizzes and presentations.
受講者に対する要望など		

年間授業計画	1. Introduction to the course 2. Regular events／Around the house 3. Past events 4. Money 5. Obligation 6. On holiday 7. Past and present 8. At your service 9. Imagining 10. Describing things 11. Presentations 12. Presentations 13. The future 14. Accidents 15. Comparing and evaluating 16. The media 17. Recent events 18. Teaching and learning 19. Narration 20. Breaking the law 21. Up to now 22. In your lifetime 23. Presentations 24. Presentations

科　目　名	英会話Ⅰ－4・5	担当者名	T.J.Fotos

講義の目標		The main objectives and aims of this upper level English elective course for non－English majors are to increase the vocabulary and understnding of general English terms that will assist students in their future careers using English. All four skills of reading, writing, speaking, and hearing of English will be covered. The main emphasis will be on speaking and listening.
講義概要		Several general interest newspaper and magazine articles will be studied. American and European movies also will be viewed. There will be some hand－outs of newspeper and magazine articles which will be read, studied and discussed in class to increase students' general vocabulary. Various American and European movies, with short written explanations will watched. The main topics of these videos are connected to European and especially French culture and history. If possible or available, these movies will be "closed caption". That is, the words that one hears will appear in English on the screen.
使用教材	テキスト	
	参考文献	Newspaper and magazine articles, as well as movie reviews will be handed out to students. Although there won't be any assigned course textbook, students should be prepared to use not only the usual japanese－English, English－Japanese dictionaries, but a simple, cheap, up－to－date English－English pocketbook dictionary would be good to have. Please note that extra copies of the videos for the course will be available for the student's individual viewing in the Dokkyo University Language Laboratory located in Building NO. 5, 3d Fir.
評価方法		(% of course grade) Class attendance, discussion and participation (70%); first semester interview "test"(15%); and final interview (15%).
受講者に対する要望など		Active class participation and regular attendance are important in determining the final course grade, so not only must the university rule of two－thirds of the classes be attended, but closer to 80% attendance would better assure that the students get something useful out of the course.

1. Introductions and possible level test.
2. Pronunciation, handouts, reading and discussion.
3. Continue with first handout and topic.
4. Review and go on to new handout.
5. Continue with topic.
6. Reading, writing and discussion
7. Reading and discussion.
8. Review vocabulary, pronunciation, and topics.
9. Last first term topic introduced.
10. Reading, writing and discussion.
11. Reading and discussion. Review key points.
12. Start oral interviews and evaluations.
13. Finish first term oral interviews.
14. Review of first semester key points.
15. Handouts, reading and discussion.
16. Continue with handout topic.
17. Review and go on to next topic.
18. Continue with topic.
19. Reading, writing and discussion.
20. Reading and discussion.
21. Review vocabulary, pronunciation, and topics.
22. Last second term topic introduced.
23. Reading, writing and discussion.
24. Reading and discussion. Review key points.
25. Start oral interviews and evaluations.
26. Finish second term oral interviews.

科目名	英会話Ⅰ－6	担当者名	L. Villeneuve

講義の目標		This course will give the students the chance to practice their spoken English, as well as their hearing skills in a context of defferent situations. Each class will consist of reading a story written in conversational English which can be understood by an ordinary college student with only a little dictionary help.
講義概要		A few videos will be presented during the year. A dialog will be practiced in pairs during the last 30 minutes of the class.
使用教材	テキスト	to be decided upon the number of applicants
	参考文献	
評価方法		A regular attendance and an active participation will be a heavy factor on deciding the final marks. A test will be given at the end of each semester. Senior students, who think they might not attend the majority of the classes, should look for another course or be prepared to read a book approved by the teacher and write a final report at the end of the second semester. The limit numder of participants will be 40. I am looking forward to seeing motivated students.
受講者に対する要望など		F42 is NOT for students who studied in an English speaking country in the past. It is for average and lower level students.

年間授業計画	1. Introduction Of The Course 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. Test 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. The Final Examination

科目名	フランス語学概論	担当者名	古川直世

講義の目標		フランス語という外国語がまず「習得する」対象であることは当然であるが、習得する対象であるだけではなく、同時に「考える」対象であるということを学生に理解させることをめざす。より具体的には、フランス語学を選んで大学院進学を考えている学生には学習から研究への意識の転換をうながすこと、その他の学生には「考える」訓練によってフランス語に対する知的好奇心を引き出すことを目標とする。
講義概要		フランス語の仕組みについて出来うるかぎり全般的な知識を与えるべく講義を行なうが、講義の重点はフランス語の構文に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。なぜ Elle a les yeux bleus という構文において直接目的の名詞は身体部分に表わす名詞でなければならないのか？ Il y a une place de libre は容認可能であるのに Il y a une place de confortable が容認可能でないのはなぜか？さらに、Il y a une place de confortable に ne que を加えた文 Il n'y a qu'une place de confortable が容認可能になるのはなぜか？このような問題を我々の母国語である日本語を手かがりにしながら考えていく。
使用教材	テキスト	プリントを配布する。
	参考文献	講義中に随時指示する。
評価方法		評価は試験と出席状況による。
受講者に対する要望など		

年間授業計画	1. 全般的なオリエンテーション。 2. フランス語の音韻体系。 3. 4. 関係節の諸相：制限的関係節、同格的関係節、疑似関係節。 5. 6. 構文の分析(1)：疑似関係節と無主題文。 7. 8. 構文の分析(2)：提示文と存在文。 9. 10. 構文の分析(3)：二重主題構文。 11. 構文の分析(4)：二次的叙述と名詞句の主題性。 12. 前期のまとめ。 13. 14. 冠詞の体系(1)：定冠詞の機能、英語の定冠詞との比較。 15. 16. 冠詞の体系(2)：不定冠詞と部分冠詞の機能。 17. 18. 動詞の体系(1)：法と時制。 19. 20. 動詞の体系(2)：代名動詞と受動態。 21. 副詞：時の副詞の位置とその機能。 22. 形容詞：形容詞の位置とその機能。 23. 代名詞：代名詞と照応。 24. 後期のまとめ。

科目名	フランス文学概論	担当者名	鈴木道彦

講義の目標		19、20世紀のフランス文学は、近代日本文学の発想源とも言えるものですが、その問題点を検討し、いくつかの作品を具体的に分析しながら、この時期のフランス文学に親しみ、その面白さを発見してもらうことが、本講義の目標です。知識を植えつけるのではなく、受講者に本を読んで考えてもらうためのきっかけになれば、と思っています。
講義概要		まず19、20世紀がどんな時代であったかを大づかみに理解した上で、個々の作家や作品を取り上げながら、それらを通して、文学についてのいくつかの態度や、文学と政治・社会の関係、といった普遍的な問題を考えていきます。受講者には、1年間に、翻訳で何冊かの作品を自分で選んで読んでもらいますが、講義そのものは、従来あまり文学に親しんでこなかった人にも、初学者にも分かるようなものを目ざします。 なお、授業計画は、受講者の理解度に応じて、多少変更する場合もあります。
使用教材	テキスト	随時プリントで資料を配布します。
	参考文献	講義の進行に応じてそのつど指示します。
評価方法		年に2度、論文形式のテストをします。
受講者に対する要望など		最初の時間に、授業の方法を説明しますので、必ず出席して下さい。また講義の各部分は有機的につながっているので継続して受講すること。

年間授業計画	1. 講義の方法の説明。全般的な注意と若干の資料紹介。 2. 19、20世紀の歴史をどうとらえるか。〈文学〉という言葉の変遷。近代の〈文学〉の誕生。 3. 4. ロマン派と〈私〉。小説の興隆。スタンダールとその作品(「恋愛論」、「赤と黒」、「パルムの僧院」など)。 5. 6. 7. バルザックと「人間喜劇」について。現実の世界と小説の世界。写実主義について。作者の思想と作品の関係。〈役に立つ文学〉と〈芸術のための芸術〉。 8. 9. 10. フローベールとボードレール。近代小説と近代詩。法は文学を裁けるか。悪と美の結びつき。 11. 12. ゾラとマラルメ。自然主義と象徴主義。散文と詩。〈知識人〉の発生。文学と政治、文学と社会。 13. 14. 20世紀文学の特徴。プルーストと「失われた時を求めて」の影響。 15. 16. ジッドとＮＲＦのグループ。ジッドの諸作品と小説の実験。「贋金つくり」の問題。 17. 18. シュールレアリスムの意義。両大戦間の文学。行動する作家と文学の責任の問題。 19. レジスタンス（抵抗）の文学について。 20. 21. カミュとサルトル。第二次大戦後の文学。実存主義と〈アンガージュマン〉。ジュネの軌跡(「泥棒日記」ほか)。 22. 23. ヌーヴォー・ロマン（新小説)、ヌーヴェル・クリティック（新批評)。そして現代へ。 24. 全体のまとめ。

科目名	フランス語史	担当者名	山田秀男

講義の目標		フランス語の文法を学んでも、何故そうなるのか分からないことが、誰でも少なからずあるだろう。例えば、travail の複数は travaux であり、femme は［ファム］と発音するのだと教えられても、何故そうなるのかは誰も教えてくれないだろう。 そこで、現代フランス語が形成されていく過程を見ることによって、こうした疑問点を解明し、フランス語に関する知識と理解を一段と深めることを目指します。
講義概要		フランス語の母体であるラテン語から出発し、さまざまな時代の多くの人びとの努力によって、現代フランス語が形成されるまでの主要な流れを概観する。 まず、各時代のフランス語の特徴を理解するため、それぞれの時代の「歴史的背景・社会的状況」を概観した後、その時代のフランス語を、「語彙」、「発音と綴り字」、「文法・統語論」、といった具体的な面から検討する。そのあとで、各時代を代表する著作家の作品の抜粋を取り上げて、その時代のフランス語の文章の実例を見ることにより、それぞれの時代のフランス語の特徴を確認していく。
使用教材	テキスト	山田秀男著「フランス語史」,駿河台出版社
	参考文献	講義中に、必要に応じて指示し、紹介する。
評価方法		評価は、出席点（平常点を含む）と定期試験またはレポートによる。
受講者に対する要望など		出席を重視し、出席点（平常点）を高くする。 なお、少しでも関心のある者は、第一回目の授業には、必ず出席すること。

年間授業計画	1	1年間の講義方針、講義内容、授業形態などから、使用テキストや参考文献案内、評価方法に関することまでの全般にわたって、受講の決定に役立つあらゆる情報を提供する。
	2 3	―古典ラテン語から俗ラテン語へ― ローマ帝国とガリアとの関係を中心に、歴史的背景を概観したのち、フランス語の母体であるラテン語の特質を見る。つづいて、古典ラテン語と俗ラテン語、さらにロマン語についての概念を把握する。
	4 5 6	―古フランス語― まず、古フランス語の歴史的背景や社会的状況を概観する。つづいて、古フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統語論について学び、古フランス語の具体像を把握する。 ついで、実際の古フランス語の文例として、古フランス語による代表的作品である『ローランの歌』と『オーカッサンとニコレット』を引用し、古フランス語のさまざまな特徴を確認する。
	7 8 9	―中期フランス語(1)―　ここでは、中期フランス語の前半期を取り上げる。 まず、その時代である十四・十五世紀の歴史的背景・社会的な状況を概観する。 つづいて、この時代のフランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統語論などの特徴を学び、中期フランス語（前半期）の具体像を把握する。 この時代のフランス語の実例として、フロワサールとヴィヨンの作品を引用して、当時のフランス語を、散文と韻文の両面から検討する。
	10 11 12	―中期フランス語(2)―　ここでは、中期フランス語の後半期を扱う。 この時代は十六世紀で、フランスのルネサンス期にあたり、その歴史的背景・社会的な状況はこれまでより以上に言葉と大きくかかわっていることを見る。 時代背景を通観したのち、この時期のフランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統語論を検討し、その具体像を把握する。この時代のフランス語の実例として、デュ・ベレーとモンテーニュの文章を引用し、検討する。
	13 14 15	―古典フランス語― まず、十七世紀のいわゆる古典フランス語の時代の歴史的背景や社会的状況を、言語との関連において、通観する。 つづいて、古典フランス語の語彙、発音、綴り字の特徴を見たのち、文法・統語論を、現代フランス語と比較しながら、検討する。そののち、古典フランス語の実際を、ヴォージェラとパスカルの引用によって見るとともに、現代フランス語との違いを検討する。
	16 17 18	―十八世紀フランス語― 十八世紀の時代背景を通観し、言語の面からこの時代の傾向と特色を見る。つづいて、十八世紀フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統語論を概観し、その特徴を把握するとともに、現代フランス語との差異を検討する。 ヴォルテールとルソーの引用によって、十八世紀フランス語の実際を見るとともに、現代フランス語との異同を検討する。
	19 20 21	―十九世紀フランス語― 十九世紀フランス語の時代背景を通観し、言語との関連において、この時代の特徴を把握する。つづいて、十九世紀フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統語論を概観し、その特徴を探るとともに、この時期に生まれた新しい学問である言語学にも触れる。 十九世紀のフランス語に大きな影響を与えたヴィクトル・ユゴーとエミール・リトレの引用を読み、その特質を探る。
	22 23 24	―現代フランス語― 第一次世界大戦後の時代背景・社会状況を、言語との関連において概観する。 つづいて、現代フランス語、とりわけ第二次世界大戦後のフランス語の特徴を、語彙、発音、言語レベルなどの面から検討し、現代フランス語の特質と変化の傾向を探る。 最後に、全体のまとめと、質疑応答による補足説明を行う。

科目名	フランス文学史	担当者名	保苅瑞穂

講義の目標		フランス文学の流れを時代を追ってたどる従来の方法にかわって、「夢」と「記憶」という２つのテーマを中心に17世紀から20世紀までの作品を取りあげて、このテーマがどのように扱われているかを考察したい。
講義概要		作品は各時代の人間観をもっとも端的に反映するものであるが、各時代の作品が「夢」、「記憶」、「思い出」をどのようにとらえているかを考察することによって、時代の変化、人間観の変化を追ってみる。従って具体的なテキストをかなり読むことになるだろう。
使用教材	テキスト	随時、必要なテキストをプリントして配布する。
	参考文献	『プルースト・夢の方法』保苅瑞穂：筑摩書房
評価方法		前・後期のレポートと平常点（出欠）による。
受講者に対する要望など		出席を重視する。受講者は25名程度とする。

科目名	フランス語学各論（94年度以降） フランス語学特殊講義（93年度以前）	担当者名	小石　悟

講義の目標	論理的な文を書くために必要な文法を学習し、自分で書いてみる。	
講義概要	多少とも論理的な文を書こうとすると、原因・結果・譲歩・目的・仮定など文と文との関係を示す表現が必要になります。すべての項目を取り扱うことは不可能なので、前期は原因・結果・譲歩を表す表現、後期は日本人にとっては最もやっかいな問題である冠詞を取り上げます。どの場合でも必ず練習問題や作文によって確実に使えるようになることを目指します。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法	宿題とテスト	
受講者に対する要望など	楽して単位を取ろうと思う人には向いていません。	

科目名	フランス文学各論	担当者名	山内宏之

講義の目標		政治的18世紀は、フランス革命とともに終った。革命時代の文学はあったが、文学的革命を直ちに生み出さなかった。19世紀の文学は、市民階級が文学的に自己を表現出来たし、新しい文学は、まず、ロマン主義として現れ、ロマン主義はスタール夫人やシャトーブリヤンが、その先駆者となる。そのロマン主義を、ヴィクトル・ユゴーを経てジョルジュ・サンドまで、追ってみたい。
講義概要		講義概要は、年間授業計画を参照されたい。
使用教材	テキスト	Gustave Lanson: Histoire de la Littérature Française, Hachette
	参考文献	「フランス文学史」饗庭孝男、朝比奈誼、加藤民男編、白水社
評価方法		年間2回のレポートを提出させる。詳しいことは、第1回目の授業の時に指示する。
受講者に対する要望など		第1回の授業の時に必ず出席すること。

年間授業計画	1. 第1回目の授業では、年間の授業計画、参考文献等の紹介をおこなうと同時に授業の進め方、単位の取得の仕方等を指示する。単位を取得しようとする学生は、必ず出席のこと。 2. 大革命はサロンを閉鎖し、作家たちは、霊感を少数の人たちの趣味に合わせようとしないで、サロンが再開されても、それを自分自身の気質の中に求めようとする。 3. 新聞が、サロンの勢力の真の後継者として登場する。新聞は、政治にも、文学にも世論を支配するに至った。 4. 政治的雄弁が出現する。政治的雄弁は、新しい発展を見せた文学の1つのジャンルである。これまで政治的問題を論ずることは、アンシャン・レジーム下では学校でさえも全く許されなかった。 5. 政治的雄弁とミラボーの出現。19世紀文学の区分。19世紀文学は、シャトーブリヤンとスタール夫人によって始まる。この二人の天才は、1820年にロマンチスムが開花するまで孤立していた。 6. 1820年から1850年ごろまではロマン派の時代となる。各作家は伝統的規則から完全に解放されて、独自の自由な形式で自分の気質を表現した。 7. 1850年から1880年にかけて、反動の時代となる。文学は再び没個性的となる。これが写実主義であり、文学の中に科学の客観性を模倣しようとさえした。これが自然主義である。 8. 1880年以後、これに反動が起こり、ロマン主義の要素を再び取りいれた象徴主義が起った。ロマンチスムは、厖大な不確定性の故に、これに取って代ろうとする流派のあらゆる要素を包含していた。 9. それ故、すべての流派がロマンチスムの恩恵を受けている。ある文学史家は云った：「われわれ自身でさえも」と。 10. スタール夫人 Mme de Staël (1766～1817) について論ずる。数ある彼女の作品の中から、より詳しく、彼女の「ドイツ論」De l'Allemagne, 1814について概説する。 11. スタール夫人の文体と作品について述べるが、何故、彼女の作品の中で「ドイツ論」がロマンチスムの原理と見做されるかを論ずる。 12. 此の回では、出しておいた課題のレポートの中から、良いものを選び、研究発表をさせる。 13. シャトーブリヤン François-René de Chateaubriand (1768～1848) について論ずる。彼は、スタール夫人と並ぶロマン主義の父といわれる。彼の作品を読んだナポレオンが、彼をローマ駐在大使館書記官に採用し 14. たことから、彼の外交官、政治家としての生活も始った。彼の作品、「アタラ」「ルネ」を始め多くの作品を概説し、「ルネ」から始ったとされる「世紀病」等にも言及する。 15. セナンクールEtienne de Senancour (1770～1846) は、書簡体の小説「オーベルマン」Obermann, 1804を書いた。これは、人間の孤独感を、「ルネ」René よりも更に知的に分析した。 16. バンジャマン・コンスタン Benjamin Constant (1767～1830) は、スタール夫人の恋人であったが、彼の小説「アドルフ」Adolphe, 1815も「ルネ」式の、世紀病的な孤独感、嫌怠感を表した作品であった。 17. アルフォンス・ドゥ・ラマルチーヌ Alphonse de Lamartine (1790～1869) は、詩集を書いた。彼の「瞑想詩集」は、当時の詩にあきた読者を魅了した。シャトーブリヤンが「アタラ」「ルネ」に表現した感動を詩の領域に見事に表現した。彼は、外務大臣経験者でもあった。アカデミー会員。 18. アルフレッド・ドゥ・ヴィニー Alfred de Vigny (1797～1863) は軍人をやめ、ユゴーなどのロマン派の運動に参加した。彼はロマン派の大詩人たちとちがった哲学的思想を述べた異色の詩人である。 19. ヴィクトル・ユゴー Victor Hugo, (1802～1885) は、「シャトーブリヤンになりたい、さもなければ無だ」と云って文学に励んだ。ロマン派最大の詩人。小説も戯曲も書いた。 20. 「クロムウェル」の序文、の中で、古典派が重視した3単位の法則を否定した。これは、若い作家たちから、ユゴーをロマン派の統率者たらしめた。又、彼は、人道主義、民主主義を鼓吹した。 21. 「ノートル・ダム・ドゥ・パリ」 Notre-Dame de Paris, 1831や、「レ・ミゼラブル」Les Misérables, 1862などの小説もある。詩集としては、「秋の木の葉」「たそがれの歌」「内心の声」「光と影」等がある。 22. アルフレッド・ドゥ・ミュッセ Alfred de Musset, (1810～1857) は1830年に処女詩集と劇を発表したが、劇の上演は失敗した。ロマン劇唯一のすぐれた劇作家、「世紀児の告白」という世紀病的長編小説もある。 23. ロマン派の大詩人たちと時を同じくして抒情性や、感受性の解放や人道主義的思想を小説によって発表した女流作家ジョルジュ・サンド George Sand (1804～1876) について述べる。 24. 此の回では、出しておいた課題のレポートの中から良いものを選び、研究発表をさせる。

科目名	フランス語学講読１（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	青木一郎

講義の目標		この講義はフランス語の文体について勉強することを目的としています。文体といっても、小説の文章を分析するだけではありません。幼児語や、俗語、文学的表現からお役所の文章など、口語表現から文学的描写まで、フランス語による表現全般に亘って勉強いたします。テキストは1974年に出版されたものですが、基本的なものを扱ったものですから、現在でも充分有益だと思います。
講義概要		このテキストの原著は、第１部が文体の基礎知識、第２部が作詩法の基礎、第３部がフランス語の歴史的概観、の３部から成り立っています。そのうちの第１部を読みますが、50頁程のテキストですから、充分１年間で読み通せると思います。なお、この著者にはフランス語中級文法を扱った「Grammaire francaise des lycées et collèges」という本がありますので、適時参照して行きます。
使用教材	テキスト	H. Bonnard 「Notions de Style, de Versification et d'Histoire de la langue francaise」(SUDEL)（プリント）
	参考文献	H. Bonnard 「Grammaire francaise des lycées et collèges」(SUDEL) 松原秀治、松原秀一「フランス語らしく書く」（白水社） 朝倉季雄「フランス文法事典」（白水社）
評価方法		評価は、前期後期とも定期試験期間中に行うテストによって決定する。
受講者に対する要望など		プリントを使いますので４月の最初の授業には必ず出席すること。

科目名	フランス語学講読２（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	山田秀男

講義の目標		この講読の授業の目指すところはただ一つである。それは、「辞書を引けば、どんなフランス語の文でも読める」ような力をつけることである。
講義概要		上記の目的を達成することは容易ではない。これに一歩でも近づくためには、着実な努力を積み重ねていく以外に道はない。 最初は、勉強の仕方、問題点の調べ方、どのような文献や辞書があり、それらをどのように利用すればよいか、といったことを中心に、質疑応答なども交えて、疑問点を残さないようにして進めていき、次第に本格的な読解へと入っていくようにしたい。
使用教材	テキスト	M.−N. GARY−PRIEUR : *De la grammaire à la linguistique,* 2e ed., 1985, Paris, Armand Colin.
	参考文献	授業中に、必要に応じて指示し、紹介する。
評価方法		年に何回か担当してもらい、それを中心にした平常点と出席状況を加味して評価する。
受講者に対する要望など		フランス語の読解力をつけるためには、あらゆる努力を惜しまない者を歓迎する。 なお、四月の最初の授業に出席しなかった者の登録は、原則として認めない。

年間授業計画	1〜12	『文法から言語学へ』と題されたこのテキストは、文法的な考え方と言語学的な考え方を比較・紹介しながら、文法から本格的なフランス語学の入門へと導いていく内容であり、第一部と第二部とに分かれている。二年間で全体を読み終える予定なので、一年目には第一部を、二年目には第二部を読むことになるだろう。 さらに、第一部は四つの章からなり、第二部は三つの章と結論からなっている。 まず、一年目の前期は、第一部の前半である第一章と第二章を読む予定である。第一章のタイトルは、「勉強の道具：文法書と辞書」であり、第二章のタイトルは、「文の定義」である。 二年目の前期は、第二部の前半である第五章と第六章とを読むことになるだろう。第五章は「品詞」であり、第六章は「機能」と題されている。 なお、一回の授業でどれだけ進むかを、あらかじめ決めておくようなことはせずに、十分な時間をかけて丁寧に、とりわけ初めのうちはゆっくり、読んでいくようにしたい。つまり、量より質を重視する方針である。
	13〜24	一年目の後期は、第一部の後半、すなわち第三章と第四章とを読む計画である。なお、第三章のタイトルは「文と発話」であり、第四章のタイトルは「容認可能な文とその他の文」である。 また、二年目の後期には、第二部の後半である第七章と結論とを読むことになるだろう。第七章のタイトルは「動詞の構文」である。

科目名	フランス文学講読１（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	井村順一

講義の目標		20世紀の作家ヴァレリー・ラルボーの中編小説を購読する。
講義概要		演習形式で授業を進め、フランス語の読解力を養うと同時に、作品の文体・話法の検討を行う。
使用教材	テキスト	開講時に指示する。
	参考文献	
評価方法		各学期末に訳読を主体とする筆記試験を行う。これに授業への参加度を加味して評価する。
受講者に対する要望など		受講者は25名程度とする。毎回下調べをし欠席しないこと。

科目名	フランス文学講読２（94年度以降） フランス語講読　（93年度以前）	担当者名	鈴木道彦

講義の目標		この講義の目的は２つあります。第１は、辞書を引いて比較的平易なフランス語を独力できちんと読めるようになること、第２は20世紀フランス文学にいくらか親しむことです。テクストとしては、簡潔で清澄な文体で知られるジュリアン・グリーンと「異邦人」で日本にもよくしられたアルベール・カミュを用います。
講義概要		最初はグリーンの「夜明け前の出発」を抜粋で読む予定です。これはごく平明な文章で書かれた自伝的作品で、フランス語に慣れるには最適なものの一つでしょう。語学的には少々易しすぎるくらいのものですが、内容は深い作品です。これで「読む」ということに慣れたところで、後半はカミュの短篇小説を採り上げることになるでしょう。
使用教材	テキスト	Julien Green,“Partir avant le Jour” Albert Camus,“L’Exil ex be Royaume”（いずれも予定）
	参考文献	
評価方法		前・後期のテストと平常点によって評価します。
受講者に対する要望など		最初の時間に授業の方法について説明しますので、必ず出席のこと。

科目名	フランス文学講読３（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	筒井伸保

講義の目標		19世紀の小説家スタンダールの中編小説“Vanina Vanini”を読みます。
講義概要		語彙や文法の知識を確認しながら訳読を進めます。１回の授業で進むのは２～３ページなので、毎回全員予習をしてきて下さい。
使用教材	テキスト	Stendhal, *Vanina Vanini. Le Coffre et le Revenant* Flammarion, 1996 (coll. Etonnants Classiques)
	参考文献	「新スタンダード仏和辞典」または「ロワイヤル仏和中辞典」。 学習者用の仏和辞典（“Dico”、「ジュネス」、「プチ・ロワイヤル」、「クラウン」など）では語彙が足りません。
評価方法		定期試験および授業への参加度（出席・予習の程度）による。
受講者に対する要望など		人数は30人程度を限度とします。この科目を取ろうと思う人は必ず１回目の授業に出て下さい。

科目名	フランス文学講読4（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	根本祐徳

講義の目標		詩人、小説家、そして絵画運動の理論的指導者でもあったギョーム・アポリネールの短編小説を講読します。
講義概要		作品を味わいながら、フランス語の読解力を養います。
使用教材	テキスト	Choix de contes de G. Apollinaire　第三書房
	参考文献	必要に応じて、紹介します。
評価方法		授業への参加度と各学期末の筆記試験による。
受講者に対する要望など		受講者は25名程度とします。

科目名	フランス文学講読５（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	保　苅　瑞　穂

講義の目標		20世紀の小説家サン＝テクジュペリーの『人間の土地』を講読する。かれの格調たかい散文の読解を通して、フランス語の美しさを味わうことをめざす。
講義概要		毎回、演習形式で授業を行う。また、とくに過去の出来事を記述する「語り」の時制について勉強する。
使用教材	テキスト	Saint-Exupéry : *Au centre du désert*（白水社）
	参考文献	
評価方法		学期末ごとに筆記試験を行う。授業への参加度を加味する。
受講者に対する要望など		出席を重視する。受講者は25名程度とする。

科目名	フランス文学講読6（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	M. 水林

講義の目標	Les nombreuses activités de notre vie moderne nous éloignent de plus en plus du monde des livres. Dans un tel contexte, ce cours a pour objectif principal de faire decouvrir le plaisir de lire ensemble et en solitaire quelques textes en français et de provoquer l'envie de se replonger dans la lecture en japonais.	
講義概要	Je propose trois oeuvres: *L'homme qui plantait des arbres* de Jean Giono. L'histoire d'un berger solitaire et paisible, le plus émouvant et le plus grand des écologistes de notre temps qui aux belles paroles préfère l'action : il plante des milliers d'arbres avec le plus grand désintéressement. *L'oeil du loup* de Daniel Pennac. Une histoire choisie dans la littérature enfantine, celle d'un loup qui n'y voit que d'un oeil et d'un petit garçon à l'oeil fermé, qui tout en se regardant fixement l'un l'autre, se racontent leurs aventures, leurs joies, leurs malheurs. *Le tablier bleu* de Martine Laffon. L'immense solitude de Louise arrivée au seuil de la vieillesse, mais ivre de liberté. Chaque semaine nous lirons ensemble les premières pages de ces trois textes. Les participants au cours poursuivront seuls la lecture d'un de ces trois livres jusqu'à la fin.	
使用教材	テキスト	Photocopies
	参考文献	Un dictionnaire francais. Par exemple, le *Dictionnaire du francais langue* étrangère, niveau II, ou bien le *Dictionnaire du francais contemporain*. Ces deux dictionnaires, publiés chez Larousse, sont diffusés au Japon en format de poche aux éditions Surugadaishuppansha. *Le Micro Robert* de poche est conseillé.
評価方法	Deux rapports à remettre dans l'année.	
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化・社会概論（94年度以降）	担当者名	横地卓哉

講義の目標		フランス語、フランス文化、フランス文学などを学ぶ上で必要な基礎的知識を身につける。
講義概要		本講義は複数の担当者によって行なわれ、地理・歴史から日常生活にいたる様々な面にわたってフランスの文化・社会に関する基礎がとりあげられます。フランス語、フランスに関わることを学ぶ上で是非とも必要な知識ですから、第一年次で受講することを強く勧めます。
使用教材	テキスト	
	参考文献	・菅野昭正ほか編「読む事典フランス」三省堂、1990年刊 ・新倉俊一ほか編「事典現代のフランス（新版）」大修館書店、1985年刊 ・その他の文献については教室で指示する。
評価方法		前・後期１回ずつ客観テストによる試験を行なう。 毎回出席カードで出欠をとる。
受講者に対する要望など		講義スケジュールや評価方法について、第一回目に説明を行いますので、受講希望者は必ず出席すること。

年間授業計画	1. ガイダンス 2. 地理（担当者　鈴木　隆） 3. 同　上 4. 同　上 5. 歴史（担当者　藤田朋久） 6. 同　上 7. 同　上 8. 同　上 9. 政治（担当者　井上スズ） 10. 同　上 11. 同　上 12. 産業・経済（担当者　横地卓哉） 13. 同　上 14. 同　上 15. 教育（担当者　筒井伸保） 16. 同　上 17. 同　上 18. 芸術（担当者　保苅瑞穂） 19. 同　上 20. 同　上 21. 日常生活（担当者　江花輝昭） 22. 同　上 23. 同　上 24. まとめ

科目名	フランス事情	担当者名	（前期）伊藤　幸次 （後期）井村　純一

前　期

講義の目標		法治国家か人治国家か。フランス人と日本の法制度と、その実際の運用の比較を通じて、両国の文化や歴史、生活習慣の相違点と共通点を探ります。将来フランスで生活する場合、フランス人と交渉する場合、また文学作品などを読む場合にも、その裏打ちとなる基礎知識を獲得するのがねらいです。
講義概要		実際に起こった事件についてのニュース報道や、文学作品、ドラマなどで扱われている事件を出発点にして、その取り扱いかた、背後にある司法制度の検討、また法曹の養成システムと、それと切り離せない両国のエリート教育法の異同や、市民参加のあり方などを考察します。また、しばしば母法であるフランス法が、どのように日本化され、吸収されていったかも調べます。
使用教材	テキスト	ヴィデオおよびプリントなど教室で放映もしくは配布する。
	参考文献	滝沢正「フランス法」三省堂　　中村他「フランス法律用語辞典」三省堂 《Le Quid 1988》
評価方法		教室での授業参加とレポート。
受講者に対する要望など		フランスでの事象に対応する日本の事柄については、受講者が調査して発表してもらうことがあります。

後　期

講義の目標		フランス人の言語生活の背景にある近代の言語文化について、その特徴を考える。
講義概要		レネンサンス以降のフランスが言語文化史のうえに残した事績を検討し、それらをもとにしてフランス人の言語意識を探る。
使用教材	テキスト	適宜プリントを使用する。
	参考文献	講義の内容に応じそのつど指示する。
評価方法		学期末に各自の見解を問う論述式の筆記試験を行う。
受講者に対する要望など		

年間授業計画	1. 2.	フランスの言語文化　〈近代フランス語の位置づけ〉
	3. 4. 5.	〈近代フランス語の準備期—16世紀〉 言語と社会制度との関係(1)　—学校、法律、教会。印刷術。ユマニストたち。
	6. 7. 8. 9. 10. 11.	〈近代フランス語の形成とその特徴—17世紀以降〉 言語と社会制度との関係(2)　—アカデミー・フランセーズ、サロンと会話。「ディスクール」（言述）の問題。文芸ジャンルとの関係。
	12.	〈結論—フランス人の言語意識〉

科目名	フランスの地誌	担当者名	鈴木　隆

講義の目標		フランスの地域のあり方を具体的に知ることを通して、フランスの文化・社会への理解を深めると同時に、人間の生活および活動の場としての地域のあり方について考えることを目指す。
講義概要		地域の概念および地域の把握の方法についての説明を行ない、それに基づいてフランスの地域を順次具体的にとりあげて分析してゆく。講義に必要な資料を適宜、配布する。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	講義中に必要に応じて指示する。
評価方法		定期試験もしくはレポートによって評価する。
受講者に対する要望など		

年間授業計画

1. 地域の概念
2. 地域分析の方法
3. パリ盆地とイル・ド・フランス地域
4. シャンパーニュ・アルデンヌ地域
5. ピカルディ地域
6. オート・ノルマンディ地域
7. サントル地域
8. バス・ノルマンディ地域
9. ブルターニュ地域
10. ペイ・ド・ラ・ロワール地域
11. ポワトゥ・シャラント地域
12. アキテーヌ地域
13. リムザン地域
14. ミディ・ピレネ地域
15. ラングドック・ルシィオン地域
16. プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地域
17. ローヌ・アルプ地域
18. オヴェルニュ地域
19. ブルゴーニュ地域
20. ノール地域
21. ロレーヌ地域
22. アルザス地域
23. フランシュ・コンテ地域
24. コルシカ地域

科目名	フランスの歴史	担当者名	藤田朋久

講義の目標		フランス史の基礎知識を学ぶ。
講義概要		今年は、まず最初に４回の講義で通史的な概観を行ないます。その上で、フランス史の基本テーマを７つほど選んで、計14回の講義を行ないます。残りの６回は、個別的な問題を論ずる予定です。
使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	井上孝治編『フランス史』山川出版社 河野健二『フランス現代史』山川出版社 柴田三千雄ほか編『世界歴史大系：フランス史』全三巻、山川出版社 （その他の文献は、授業でそのつど指示する）
評価方法		レポート２回、小試験２～３回、出席点など。
受講者に対する要望など		初回に授業の進め方を説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

科目名	フランスの思想（94年度以降） フランスの哲学（93年度以前）	担当者名	若森栄樹

講義の目標	古代ギリシャから現代までのヨーロッパの思考の歴史と辿りながら、結局「哲学 Philosophia」とは何なのか、という問いをめぐって考えていきたいと思っています。それは私達と無関係な問いではありません。私達の具体的な日常生活もそのような問いと切り離せないことを示していきたいと思っています。	
講義概要	古代ギリシャから、カント、ヘーゲル、ニーチェ、ハイデッガーに至るドイツの哲学をふまえて、現代フランスでどうような事が論じられているかを見ていきます。とくに、ブランショ、レヴィナス、デリダのような人々を中心に話をすすめる予定です。 なるべく誰にでもわかるように話をしたいと思っています。	
使用教材	テキスト	プリント使用
	参考文献	授業の際指示する。
評価方法	前後期のレポートにより評価する。	
受講者に対する要望など		

年間授業計画	1. ヨーロッパ的な思考と日本の思考(1) 2. 〃 (2) 3. 〃 (3) 4. 〃 (4) 5. 6. ニーチェの「ツァラトゥストラ」における思考の転換(1) 7. 〃 (2) 8. 〃 (3) 9. 〃 (4) 10. ハイデッガーのニーチェ解釈をめぐって 11. フロイトの精神分析について(1) 12. 〃 (2) 13. 〃 (3) 14. ブランショと「死」の問題(1) 15. 〃 (2) 16. 〃 (3) 17. 〃 (4) 18. 〃 (5) 19. アウシュヴィッツ以降の思考の課題（レヴィナスとデリダ）(1) 20. 〃 (2) 21. 〃 (3) 22. 〃 (4) 23. 〃 (5) 24. 〃

科　目　名	フランスの美術	担当者名	前　川　久美子

講義の目標	美術作品を研究（鑑賞）するための力を養う。	
講義概要	フランスの作品に限定せず、西欧美術の作品全般を視野に入れる。地域文化研究（西洋美術史）の応用編と考えてほしい。 本年度は、美術史家アーウィン・パノフスキーの研究に関して、主として「初期ネーデルランド絵画」を読んで学習する予定。パノフスキーの著作は多数翻訳されているにもかかわらず、最も重要な著作の一つである本書はいまだ日本語で読むことができない。本書で論じられるのは、15世紀フランドルの絵画である。 この授業は、一方的な「講義」ではなく、聴講者が積極的に予習、発表、議論してゆく。	
使用教材	テキスト	Erwin Panofsky, *Early Netherlandish Painting*, Cambridge, Mass., 1953.
	参考文献	基本文献は授業時間中に話す。
評価方法	人数が多い場合はテスト。予習、出席、発言など授業への積極的参加を重視する。	
受講者に対する要望など	例年、仏語学科以外の学生が聴講するため、主として英語のテクストを学習する。英語を読め、美術に関心をもち、学習意欲のあるものならだれでも歓迎する。希望者は仏訳を読んでもよい。	

1〜2	イントロダクション
3〜12	教材の訳読。特定主題に関する発表など。
13〜24	夏休みの課題の発表。教材の訳読など。

科目名	フランスの音楽	担当者名	松橋麻利

講義の目標		対象は、いわゆるクラシック音楽です。まず、めったにクラシック音楽を聴かない人にもそれを知る機会を提供すること、さらにその発展の歴史を学んで、より身近にクラシック音楽を感じ、自分がそれにどう反応するかを知ること、また周知の作曲家でも、別の角度から自分なりの見直しをできるようにすること。
講義概要		今年度は、西洋音楽史を、その源であるグレゴリオ聖歌から辿ります。なるべくふだんあまり耳にできない実例を多く聴きながら、フランスを中心に18世紀の古典派まで進む予定ですが、進度によっては次のロマン派へ入る可能性もあります。
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	D．J．グラウト著『西洋音楽史』上・下 寺西春雄著『音楽史のすすめ』 井上和男著『音楽の世界史』（以上、音楽之友社刊） 高橋浩子ほか編著『西洋音楽の歴史』（東京書籍）
評価方法		前期・後期各１回の試験と出席率
受講者に対する要望など		何かをやりながらではなく、音楽と向き合って聴く姿勢も身につけてください。

年間授業計画	1. 中世1 2. 中世2 3. 中世3 4. 中世4 5. ルネサンス1 6. ルネサンス2 7. ルネサンス3 8. ルネサンス4 9. バロック1：イタリア 10. バロック2：イタリア 11. バロック3：イタリア 12. 前期試験 13. バロック4：フランス 14. バロック5：フランス 15. バロック6：フランス 16. バロック7：ドイツ 17. バロック8：ドイツ 18. バロック9：ドイツ 19. 古典派1：イタリア 20. 古典派2：フランス 21. 古典派3：フランス 22. 古典派4：ドイツ 23. 古典派5：ドイツ 24. 後期試験

科目名	フランスの演劇	担当者名	江花輝昭

講義の目標		「食べるモリエール」と題し、フランス17世紀の大喜劇作家 Molière（1622－1673）の作品に現れる食事や料理にかかわる場面・台詞を手がかりに、17世紀フランスの上流階層、特に宮廷における食文化を追究します。さらに、その文明史的意義について考察します。
講義概要		授業は原則として講義形式で行います。まずモリエールの作品理解の前提として、フランスの17世紀とはどのような世紀であったかを整理し、解説します。次いで、食文化史、料理史の上で16世紀から17世紀にかけて起こった大変化、第一の「味覚革命」について解説し、その変化が何によってもたらされたのかを探ります。その後モリエールの作品分析に移り、当時の料理指南書、礼儀作法書なども参照しつつ、歴史的コンテクストの中で戯曲を解釈、鑑賞します。理解を助ける一助としてヴィデオも使用する予定です。
使用教材	テキスト	テキストその他については、モリエールの喜劇作品の抜粋等コピーで配布します。
	参考文献	
評価方法		学年末にレポートを提出してもらい、基本的にはそれで評価しますが、一定の出席率を満たした人のみにレポート提出権を認めます。授業にきちんと出席し、提起された問題に対して自分の頭で考える意欲と能力を持った人でなければ、レポートに何を書けばよいのか途方に暮れるでしょう。
受講者に対する要望など		テキストについては原文を使用しますので、フランス語能力が必須です。学年末に参考文献を丸写ししてレポートを書けば単位がもらえるような授業ではありませんので、履修登録は慎重に。

年間授業計画	1. まず、フランス17世紀の歴史について概観する。 2. 次いで、16世紀から17世紀にかけての食文化、料理について、主として上流階層における変化を中心に解説する。適宜当時の料理指南書、礼儀作法書なども参照して、理解を深める。 3. さらに、モリエールの作品分析に移り、常に戯曲を歴史的コンテクストの中に置きつつ解釈、鑑賞する。 4. 最後に授業を通じてあぶりだされてきた問題を整理し、総括する。 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.

科目名	フランスの政治	担当者名	井上スズ

講義の目標		現代フランスの政治の仕組みを理解させ、またフランスの政治の基底にあるフランス人の思考行動様式への関心を喚起することを目的としている。
講義概要		講義前半では、第五共和政の政治制度の概要とその機能の仕方について述べる。その際本年度法改正等何らかの動きが予想される司法制度改革や議員の兼職制限等にも注目したいと思う。後半の外交については、ミッテラン外交を中心として扱うが、今日フランス外交には大きな変化の兆しが現われているので、この点も可能な限り視野に入れて講義する。
使用教材	テキスト	使用せず
	参考文献	奥島孝康・中村紘一編　「フランスの政治」　早稲田大学出版部 J．ヘイワード　「フランス政治百科」上・下　勁草書房 事典　「現代のフランス」（増補版）　大修館
評価方法		前期・後期それぞれ課題を示して、レポートを出させる。課題との対応、論理の明確さ、自分の意見・考えであるか否か、参考書明示の有無等を考慮して評価する。
受講者に対する要望など		授業中参考資料としてプリントを配布することが多い。これらは、レポートの際の資料ともなるので、必ず受けとること。

年間授業計画	1. 第五共和政の成立。憲法の精神、政治ゲームのルールとしての憲法と憲法解釈 2. 同上 3. 大統領・政府・行政システム（保革共存の場合いかに機能するかの問題を含む） 4. 同上 5. 同上 6. 議会（制度の特色） 7. 議員とはどのような職業か（兼職の問題等） 8. 選挙制度と投票行動 9. 政党と選挙 10. 政治と司法（司法制度改革、政治と司法の危うい関係） 11. 同上 12. 結び（第五共和政の政治システムの特色） 13. 外交政策はどのようにして作成されるか 14. 同上 15. 対アフリカ政策 16. 同上 17. 同上（最近の急激な変化） 18. 対中東政策 19. 軍事力・核兵器と外交 20. 湾岸戦争とフランス外交 21. 同上 22. ヨーロッパ統合とフランス 23. 同上 24. 結び（冷戦後のフランスの外交・軍事戦略）

科目名	フランスの経済	担当者名	千代浦　昌　道

講義の目標		フランス経済の歴史と現状を学び、その知識を国内・国外の経済・社会問題についての正しい見方・考え方に役立てること。
講義概要		前期は、フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス経済の歴史的背景を形成している18世紀の産業革命以後のフランスの経済発展史を中心に講義する。 後期は、特に第二次世界大戦以後のフランス経済の成長と変遷を、企業国有化と経済計画の流れに沿って説明する。
使用教材	テキスト	Japan 1998: An International Comparison（経済広報センター、1997）
	参考文献	井上幸治編『フランス史（新版）』（山川出版社、1974） 長部重康編『現代フランス経済論』（有斐閣、1983） 原　輝史編『フランスの経済』（早稲田大学出版部、1993）
評価方法		前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。
受講者に対する要望など		日本語、外国語を問わず、新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

年間授業計画	1. 授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明、最近のフランスの政治経済情勢についての基礎知識 2. 簡単な経済専門用語の基礎知識、フランス経済の基礎データの説明（Japan 1998: An International Comparison） 3. 近代におけるフランス経済の発展：経済発展と工業化についての基礎知識 4. 近代におけるフランス経済の発展：フランスの産業革命の特徴 5. 近代におけるフランス経済の発展：産業革命前史１（旧体制下の経済と社会） 6. 近代におけるフランス経済の発展：産業革命前史２（フランス大革命とナポレオンＩ世の時代） 7. 近代におけるフランス経済の発展：農業と産業革命 8. 近代におけるフランス経済の発展：工業化と人口問題 9. 近代におけるフランス経済の発展：天然資源と工業化 10. 近代におけるフランス経済の発展：国内産業の保護、植民地経営と工業化 11. 近代におけるフランス経済の発展：金融制度の発展と工業化 12. 近代におけるフランス経済の発展：工業化の社会的諸条件 13. 戦後フランスの経済：戦後フランスの政治と経済の変遷 14. 戦後フランスの経済：経済計画と第１次国有化 15. 戦後フランスの経済：ドゴールとポンピドゥーの経済政策 16. 戦後フランスの経済：ジスカールデスタンとバール・プラン 17. 戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計１（Japan 1998: An International Comparison） 18. 戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計２（Japan 1998: An International Comparison） 19. 戦後フランスの経済：最近の基礎経済統計３（Japan 1998: An International Comparison） 20. 戦後フランスの経済：ミッテラン大統領時代の経済政策１（第２次国有化と社会主義政策） 21. 戦後フランスの経済：ミッテラン大統領時代の経済政策２（保革共存と民営化） 22. 戦後フランスの経済：ミッテラン大統領時代の経済政策３（欧州共同体とフランス経済） 23. 戦後フランスの経済：シラク大統領の経済政策 24. 戦後フランスの経済：まとめ（失業、インフレ、貿易、フランの地位など）

科目名	フランス文化・社会各論（94年度以降） フランス文化特殊講義　（93年度以前）	担当者名	筒井伸保

講義の目標		16世紀フランス・ルネサンスの文化状況とそこに生きた人間たちの姿を研究する。世紀前半は当時の先進国イタリアからルネサンス文化が本格的に移入されるとともに、宗教改革の気運が急速に高まった。世紀後半は宗教改革の抗争の激化により泥沼の宗教戦争に陥りフランス社会は壊滅の危機に瀕する。しかし骨肉相食む戦乱は人間の運命についての深い考察を生み出し、宗教的寛容（信仰の自由）や国家主権の近代的理念をもたらした。芸術・文学が開花し人間尊重を謳歌する明るい面と、人間不信や現世否定、狂気や殺戮の暗い面が交錯する複雑な時代状況を多角的に捉えたい。
講義概要		講義は、下記のテキストを輪読する形を中心に進める。主要な原資料を原文（16世紀のフランス語）で読むこともある。
使用教材	テキスト	渡辺一夫　『フランス・ルネサンスの人々』　（岩波文庫）
	参考文献	まずリュシアン・フェーヴル『フランス・ルネサンスの文明』（ちくま学芸文庫）を読んでください。これは前年度のテキストでした。
評価方法		評価は各学期末のレポートと授業への参加度による。出席を重視します。
受講者に対する要望など		授業の時だけテキストに目を通すのではなく、日頃から新聞・読書を通じて論理的な文に慣れるように。

科目名	フランス文化・社会講読１（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	一　戸　とおる

講義の目標	フランスにかぎらず、広くフランス語圏における現代の文化的問題（ex.：英語圏文化に対して仏語圏文化はどういう立場をとっているか）・社会的問題（ex.：移民、失業）についての理解を深めると同時に、これらの問題に関してみずから表現できる能力を養う。	
講義概要	新聞・雑誌に掲載されている時事的記事を題材に、まず、理解する練習をする。次に、若干の議論の後、同一のテーマについて各自仏語で書く練習をする。最後に、このテクストのcorrectionをする。	
使用教材	テキスト	適宜コピー
	参考文献	
評価方法	授業への参加態度、contrôle continuと定期試験の結果を総合的に評価する。	
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化・社会講読２（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	江花輝昭

講義の目標	時事的な内容の新聞記事を辞書を使わずに速読し理解する訓練と、同一テーマを扱ったテレビニュースの聴解訓練を通じて、総合的なフランス語能力の向上を目指します。	
講義概要	“Le Journal des Enfants” や “Les Clefs de l'Actualité”などのフランスの青少年向け新聞の記事を使った速読による内容理解の訓練と、主として France 2 のテレビニュースを使った聴解による内容理解の訓練とを組み合わせた形で授業は行われます。授業のレベルは中・上級向けで、特にテレビニュースの聞き取りにはきわめて高度な聴解能力が要求されます。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法	平常点を重視します。前後期２回の定期試験も行い、総合的に評価します。	
受講者に対する要望など	平常点を重視しますので、こまめに授業に出席しなければ単位が取れません。受講者を制限するかもしれないので、一回目の授業に必ず出席すること。	

年間授業計画	1. 第一回目は年間の授業スケジュールについて説明し、場合によっては簡単な小テストを行って受講者を制限します。 2. 二回目以降はひとつのテーマにつき２～３回かけて、年間で７つないし８つのテーマを消化する予定です。 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.

科目名	フランス文化・社会講読３（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	小石　悟

講義の目標		Compréhension orale（聴解）の能力を高める。 書かれたテクストはかなり難しいものが読めるのに、音になるとごく簡単なものでさえも理解出来ない人がときどきいます。この授業では自分の弱点がどこにあるかを見つけることを手助けし、学生自身がフランス語学習の自律性を身につけることを目指します。
講義概要		単音の区別、語彙力の増加、compréhension globale（全体的な理解）、compréhension analytique（分析的な理解）、スピードに慣れる練習など様々な方法を使いながら、普通のスピードのフランス語を理解出来るようにしたいと思います。各週の授業内容は受講者のレベル、要望、進度等を考慮の上決定します。前期は既存の教材、後期はニュースのテープ・ビデオを使う予定です。
使用教材	テキスト	補助教材として適宜カセットを準備します。
	参考文献	
評価方法		実際の訓練を行うので出席重視。
受講者に対する要望など		

科目名	フランス文化・社会講読４（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	佐藤正之

講義の目標		現代世界の高度消費社会、情報化社会とこれに伴う環境問題などに関する評論文をテキストに選んでフランス語の読解力を養う。
講義概要		人間と水資源利用の歴史、消費社会の神話、情報化社会と国家権力の変貌などについて書かれたエッセーをとり上げる予定。毎回３～４名に分担して朗読と和訳をしてもらい解説を加える。
使用教材	テキスト	TSUKAHARA (Ed.): Lire le XXᵉ siècle — Regards sur les sociétés actuelles など、その他プリント
	参考文献	教室で随時指示
評価方法		前期、後期試験と授業への参加度、平常点による。
受講者に対する要望など		第一回の授業で、授業の進め方など説明をします。受講者数を制限する場合は、当日の出席者を優先し、30名程度にする。

科目名	フランス文化・社会講読５（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	鈴木　隆

講義の目標		フランスの都市生活に関する文献の講読を通じて、フランスの文化・社会の一面を理解し、且つ現代の都市現象について考察すると同時に、フランス語のより高度な修得を目指す。
講義概要		学生は与えられた文献の内容についての説明を行う。講義担当者はそれについての論評（誤まりの訂正、補足説明）ならびにフランス語の表現についての説明等を行う。
使用教材	テキスト	プリントして配布する。
	参考文献	講義中に必要に応じて指示する。
評価方法		講義中の学生の発表および定期試験の結果によって評価する。
受講者に対する要望など		
年間授業計画	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.	テキストは年間を通じて、初めから順次講読してゆく。進む速度については予め定めず、テキストの内容の十分な理解がなされた段階でテキストの次の部分へ進む（以上、第１回から第24回までに共通）。

科目名	フランス文化・社会講読６（94年度以降） フランス語講読（93年度以前）	担当者名	横地卓哉

講義の目標		＊フランスの文化・社会に関する知識を広める。 ＊フランス語で書かれた文章を、速く正確に読めるようにする。
講義概要		前期はフランスのブランドや企業の由来を紹介した文章を、後期は簡単な新聞の記事を読みます。
使用教材	テキスト	“Le livre des marques”（「ふらんす・ロゴ物語」）駿河台出版社 およびプリント。
	参考文献	
評価方法		前・後期の定期試験と平常点による。
受講者に対する要望など		必ず予習をして下さい。

科目名	フランス文化・社会講読７（94年度以降） フランス語講読　（93年度以前）	担当者名	Ph. M. R. Vanney

講義の目標	1) Pouvoir lire des textes à contenu politique, sociologique ou économique. 2) Connaître certains grands événements de l'histoire française du XXe siècle qui continuent à avoir une influence directe sur la société française.	
講義概要	1) Contenu : Lecture d'un entretien de Germaine Tillion où elle parle de ses travaux sur la société algérienne, de sa participation active à la Résistance française, de sa détention dans un camp de concentration allemand et enfin de la guerre d'Algérie. 2) Méthode : —Cours en français. Pas de traduction. —Approche globale : comprendre le sens général, le développement logique des idées. Répondre à des questions données au préalable. —Approche détaillée sur le plan lexical et grammatical. —Étude des événements évoqués dans l'interview. —Les étudiants doivent tenir un carnet de vocabulaire.	
使用教材	テキスト	Germaine Tillion, *La Traversée du mal*, Arléa, 1997.
	参考文献	
評価方法	Examen à la fin de chaque semestre : explication de mots, de structures grammaticales et contrôle des connaissances de base sur les événements étudiés.	
受講者に対する要望など	Tous les étudiants doivent préparer à l'avance le cours.	